

# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 市民会議編 vol.1



発行日：平成 27 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆矢作川流域圏懇談会第 6 回市民会議を開催しました！

1 月 29 日に矢作川流域圏懇談会第 6 回市民会議が開催されました。市民の方々が参集し、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の三つの流域連携テーマについて活発な議論がなされました。

日時：平成 27 年 1 月 29 日（木）18:00～20:30  
場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 部会室  
参加者：17 名（事務局含む）



## ◆主な会議内容

### 山・川・海部会の取組み状況報告



- 山部会：山の再生だけでなく人の交流など、山川海をつなぐような活動が生まれつつある。
- 川部会：豊田市や矢作川漁協、大同大学と意見交換してつながりができた。
- 海部会：矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験施工などが実現化することとなった。

### 流域連携テーマの検討を進めるための市民ができること



- ごみ・流木：局所的豪雨を想定して、どういう山をつくるか、気づかいをするか、踏み込まないといけない。その時に、生活ゴミがどうかにならないか。デポジットなどを制度としてやっていかないと、市民の善意だけでは限界がある。流木の問題は理想の姿があるのではないかと。森林土壌さえしっかりしておけば豪雨でも大丈夫という論理も出ている。（井上）
- 土砂：山、川、海の守備範囲で、それぞれの思いを出して、すりあわせて議論したい。市民として何ができるのか、管理者としてどうかかわるか、などをまとめたい。各部会であるべき姿を出し合って、すりあわせて、流域圏として土砂のありかを考えることが目標。（青木（代理：西原））
- 木づかい：流量・土砂問題に対する共通認識や理想を市民部会としてもみたい。発生源の特定や川や海での木づかいを検討したい。川や海で定点観測する場所に小屋を提供するなど、川の魅力を伝える講座を山、川、海で活動し、市民も参加させたい。森林組合のダンプで矢作ダムの砂を運び連携するなどでもできる。（今村）



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

### ●「ごみ・流木」について

- 生活ゴミをどうにかして減らせないか。(井上)
- 木づかいがうまくいけば流木問題の解決につながるかどうかを考えたい。(光岡)
- 奈佐の浜では大半が生活ゴミで小径木の広葉樹も多かった。流木は漁業被害を生むが自然現象の面もある。(洲崎)
- 矢作ダムがなかったら流木被害はもっと大きくなるかもしれない。(光岡)
- 流木が増えているのか減っているのか、実態を把握するための聞き取り調査をしてみてもどうか。(洲崎)
- 生活ゴミの削減は、市民の善意だけでは限界がある。デポジット制度等の導入を検討していく必要がある。(井上)
- スポンサー等をつけるなどして流木アートをうまく活用できないか。(菅原)
- 食物連鎖が正常になるには山の土壌がよくなるといけない。特にケイ酸に着目したい。(井上)



### ●「土砂」について

- 土砂災害の問題は山の管理と関係している。(黒田)
- 林業は水源涵養等を通じて土砂災害の問題にも責任を負っている。(今村)
- ダムは流木をとめる役割もあるので、あたまごなしに否定するのではなく、実態を知った上で土砂問題を考えていく必要がある。(光岡)
- 上流から土砂が流れてこなくなり、干潟や生き物が減った。(高橋)
- 森林組合のダンプを使って矢作ダムの砂を運ぶ等の海との連携も考えられる。(今村)



### ●「木づかい」について

- 上流域の木を下流域の人たちに使ってもらいたい。(今村)
- 人生のサイクルの中で地元の木を使ってもらえるようにできるとよい。(今村)
- 空き家が発生する一方で、新築は毎年行われている。ハウスメーカー等は合成材を使っており、木が使われていないわけではないが、木づかいは単純に量の問題だけではない。(小澤)
- 川や海での活動拠点に小屋を提供する等による木づかいを通じた流域連携も考えていきたい。(今村)
- 構造材としての木材活用やスギダラケのような市民運動と連携していくことも検討したい。(今村)
- 間伐材して運び出す山と、間伐して切り捨てる山を選別することを検討する必要がある。(小澤)
- 生産林だけでなく環境林としての森林の機能をもっと周知する必要がある。(本守)
- 住宅のスクラップアンドビルド等の生活の質の問題も木づかいと一緒に考えていきたい。(黒田)
- 沖縄のような台風常襲地帯や沿岸部の住宅は、木造から鉄筋コンクリート造に変わってきた。災害対策と家づくりを本気で考えないといけない。(小澤)

